

みんなで築こう 素晴らしい竹田市 What a wonderful world!

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

羽ばたき

被災されました方々に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、傷つけられました身と心の一日も早いご回復を心底からお念じ申し上げます。

平成24年
夏季号

編集：暮らし考房「もやい」 発行：土居昌弘
土居昌弘連絡事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地
TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124
<http://www.doi-masahiro.jimusho.jp/>

感謝を原動力にして復興を!! 竹田市ボランティアセンター「支援を支えた尊い使命」



せっかくの休日に体を酷使し、作業をする人。自分の仕事を休んでまで駆けつけてくれた人。しかも手弁当で。多くの方々が復旧に向けて、力を下さいました。
一被災者

7月12日未明から早朝にかけて、竹田市の観測史上最大の雨量を記録した「これまでに経験したことのない」豪雨。山は崩壊し、川は氾濫。大切な市民のいのちと暮らしに甚大な被害を加えました。

その大混乱の中で、竹田市社会福祉協議会はボランティアセンターを立ち上げ、県内外から復旧作業に駆けつけてくれた方々を迎え入れ、その支援活動が被災した方々に適切に届くように懸命に尽力してくれました。

ボランティアに参加されたのは、各種団体・グループから一人での参加の方まで、その数3,000名以上!その中でセンターは、被災現場の要望を調べ、その現場に応じた支援を手配したのです。運営に携わったスタッフや支援に係わったスタッフの「苦しむ竹田市民を何とかしたい」「ボランティアの方々のありがたい思いを無

駄にしたい」という共通の思いを土台にして、支援の力を最大限発揮できるよう、センターを組織化し、役割を分担した結果、センター業務は情熱と沈着さが同居するものとなりました。

副センター長として業務にあたった社協の小林慶課長は言います。『連日不眠不休のような状態が続くので、部下に「明日は休め」と言うと、「休みません」と涙を浮かべて返事をしてくる。そんな状態でした』と。

今回の災害で私たちは「人は一人で生きている」のではなく、「人と人の絆の中で生かされている」ことを実感しました。しかも、この大事な考えを実践していくためには、その活動をしていくための「つなぎ合わせるしくみ」を充実させることが重要だと言うことも。

今回の水害で県下3カ所に設置されたボランティアセンターを回ってこられたボランティアの方が「竹田の運営が一番いいよ」と言って下さいました。この言葉を誇りにして「人と人が支え合う社会」の実現に向けて、感謝の念を胸に、力を合わせ、心も合わせて、頑張っていきたいと思います。





●大分県議会 平成24年 第2回定例会

土居昌弘一般質問

6月28日(木)に開会の大分県議会平成24年第2回定例会の一般質問に「長期総合計画の執行管理の徹底」「大蘇ダムへの県の対応」「人・農地プランの作成支援」「農地・水保全管理支払交付金の確保」「アユの中間育成施設の充実」「特別支援学校に専攻科設置」「特別支援学校と地元学校との副籍制設立」「空き家対策の充実」などの課題を持って登壇しました。

こちらでは、その一部を紹介します。

大蘇ダム対策

(土居質問)



漏水が激しい大蘇ダム。さる6月18日に九州農政局から地元に対して、平成25年度以降の浸透抑制対策の内容が示された。それは「ダム法面全面のコンクリート吹付」を「工事費100億円程度」で、「県と

市の負担が伴う国営事業」として実施したいというもの。県の対応は。

(知事答弁)

これまで対策工事は「国の責任で実施して」と言ってきたが、大事なことは、ダムを早期に完成させ、地元に安定した用水供給を行うこと。約30年間、水を待ち続けている農家の思いに立ち、地元の意見を聞きながら、今後の対応について検討していく。



大分県と竹田市、そして土地改良区との意見交換(8/1)

人・農地プラン作成支援

(土居質問)

国は農業の基本となる「人と農地」の問題を一体的に解決するため、未来の設計図となる「人・農地プラン」の作成を市町村に求めている。この支援体制は。

(農林水産部長答弁)

県庁内に「人・農地対策推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、地域の課題の把握を行った。今後は研修会の開催や、優良事例の紹介などを行い、プランの作成が円滑に進むよう支援する。

「農地・水」の予算確保

（土居質問）

平成19年度から始まった「農地・水保全管理支払交付金」。農業者と非農業者の地域住民が一体となって、農地や農業施設の維持管理に努めており、多大な成果を収めている。竹田市でも60の組織で2,200haを超える農地が加入している。



岩瀬栃鶴地域づくり協議会による生態系保全のための生きもの調査

本年度からの2期対策でも、多くの地域から新規加入を求める声が上がっている。県でも平成22年度末の取り組み面積15,803haを、平成27年度には18,000haにすると計画している。

しかしながら、本県への国費配分額が要望額を大きく下回っていると聞く。その実態と対策は。

（農林水産部長答弁）

今年度の国費割当額は、要望額の概ね8割。追加予算の見通しは不透明で、大変厳しい。

予算の配分は、継続地区は要望通り。今年度から新たに取り組む地区は、国の割当額の範囲内に抑えることで、できるだけ多くの地区で活用できるように検討している。

今後も地域の要望に応えられるよう、国に働きかけていきたい。

地元の学校の学籍を

（土居質問）

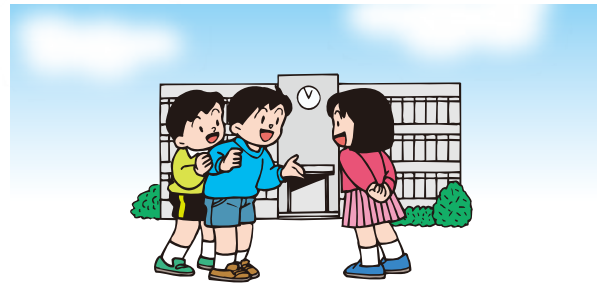
東京都では特別支援学校に通う児童生徒が、居住する地域の小中学校に籍を置く、副籍制度を導入している。支援学校の子供が、地元の学校にも籍を置いて、地元の学校に、その子が来たら「いらっしゃい」ではなく、「おかえりなさい」と迎える。地元の中学校の卒業アルバムにも一緒に載る。

こういう教育環境をつくるべきと考えるが、どうか。

（教育長答弁）

本県では副籍制を導入してないが、全ての特別支援学校で近隣の学校と学校間交流を実施している。今後も近隣や居住地の学校との交流および共同学習

を一層推進し、障がいのある子どもたちが地域とつながり、地域の中で成長していけるよう努めていきたい。



障がいのある人もない人も、ともに暮らす社会づくり

地域を残す「空き家」対策

（土居質問）

深刻な過疎・高齢化に直面して問題となるのが、空き家。空き家には2つの側面がある。一つは、管理が行き届かなくなった廃屋としての空き家。これを適正管理しようと「空き家対策条例」を制定する動きもある。そして、もう一つは、活用される地域の資源としての空き家。徳島県神山町では、東京のIT企業などが空き家を利用してサテライトオフィスにしている。県としての対策は。

（知事答弁）

適正管理の面は、各自治体で動き始めている。また、有効活用の面では、「ふるさと大分回帰推進連絡会議」で市町村とも連携しながら、対策を考えている。今後はさらに連携を密にして、空き家情報を収集し、報提供の充実に努めていく。また、空き家となった古民家の再生を地域活性化総合補助金により支援している。

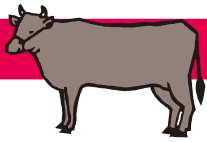
（土居要望）

空き家活用は単に人口増加だけが目的ではない。有効活用の究極の目的は、「ここに移り住んで何がしたいか、また何ができるか」を考えることができる

人材の発掘。移住してきた人と地元の人々が交わることで、この地域を引き継いでいきたいという願いを同じくして、ともに生きていくことへの支援だ。積極的な対策を。



空き家の活用!! 宮砥の高木さんご夫妻



和牛で起こせ、竹田市!!

うし部?

三重総合高校久住校の「うし部」。平成19年度の学校評議委員会の声を活かして誕生したそうです。今では元気いっぱい、久住校の畜産を牽引しています。7月31日には「第10回全国和牛能力共進会 和牛審査競技会高校生部 大分県予選会」が開かれま



第10回全国和牛能力共進会 和牛審査競技会高校生部 大分県予選会

した。この秋に長崎県で開催される全国共進会の予選です。

参加したのは三重総合高校久住校、玖珠農業高校、宇佐産業科学高校の3校。この大会は和牛を審査することを通じて、和牛に対する理解を深め、和牛の担い手の育成を図ることを目的としています。生徒は真剣なまなざしで審査していました。



審査に集中しています

今回は残念ながら、大分県の高校生代表は玖珠の生徒に決まりましたが、優秀賞2名に久住校「うし部」の星本麻希さんと志賀めぐみさんが見事選ばれました。

今後も「うし部」が久住校の畜産を引張り、学校の特色を色濃くしてくれるのは間違いありません。

もうかる畜産

「『平茂勝』に巡り合うまで20年かかった」と、ゆくりと語り出した徳重和牛人工授精所 徳重雅子社長。その姿は、自分の目標に向いて歩み続ける求道者のようでした。種雄牛造成の研究のため、大分県農業振興調査会で鹿児島へ。「いい雄牛をつくるのに一番大事なことは、いい雌牛を選ぶこと」、そのため



右から油布農林水産委員長、徳重社長、近藤農業振興調査会会長（登録協会支部長）と土居

には「肥育の成績がわかることが必須条件」。「雌牛の良い系統を残すことが県の役目」…とデータを示しながら、徳重社長は丁寧に話されました。

鹿児島県では日本一の和牛産地づくりを目指して、県とJAが連携を密にして、優秀な雌牛については地元で保留するために事業を実施しています。

さて、大分県はどうでしょう。大分県の子牛市場の平均取引価格は、JAさつまの子牛市場と比べて1頭あたり約7万円も安い。これが大分県の畜産の現状です。これを踏まえて県は本腰入れて、起死回生の策を打



第10回全共県南予選会(5/23)

て出なければなりません。

「以前、県はよく、子牛が市場に出る前に、いい牛を買い上げて肥育していたのに」と単に過去を振り返るだけなら戦略は生まれてこない。県庁と議会が過去を汲み取り、それを未来に活かしていくために、現場の立場に立って、本気で議論しなくてはなりません。

いつの日か、豊肥市場がJAさつまの市場と肩を並べ、どちらが日本一かを競い合う、そのことが実現しますことを深く願いながら、畜産振興政策を提案していきます。



第10回全共肉牛臨時市場

編集 災害の検証と対策

後記

「大量に流れてきた杉」「流木が掛かって流れを止めた橋」「玉来ダム建設の現状」「未完成の玉来ダムの機能を想定した護岸整備」「魚住ダムの在り方」…被災者から寄せられる様々な災害拡大の要因と考えられるものです。この一つ一つを丁寧に検証し、しっかりと対策をとって、減災社会を築いていかなければなりません。頑張ります!

土居昌弘

●お問い合わせ：土居昌弘連絡事務所 竹田市挾田670番地 ☎0974-62-4848・FAX63-0124